

AAP旅行記

アメリカ歯周病学会への参加

武田 朋子

2010年10月30日から11月2日までオアフ島ホノルルで、AAP（アメリカ歯周病学会）が開催されました。10年ぶりのハワイでの開催という事で日本歯周病学会が共催し、非公式ではありますが、870人あまりの日本人の参加がありました。多くの日本人の参加により、アジアの代頭として我々日本は存在感を示せたのではないかと感じました。プログラムも初日から、パンアジアシンポジウムと題し台湾、日本、アメリカを代表する若手の講演があり、世界経済に通ずるアジアの勢いそのままに多くの観客が聞き入っていたのが印象的でした。そんな中、10月31日、私達「日本インプラント臨床研究会」会長、井汲憲治先生がCE1セッション「診断用ソフトの精度」と題し、CTにおけるソフト精度について、流暢な英語で30分間講演をされました。

今や、CTはインプラントのみならず、歯周治療においても診断ツールとして欠かせない存在となりつつあります。実際歯周治療とインプラントが混在する治療が多くなってきている昨今、CT活用の重要度は増すばかりであり、歯周病専門医の中でも基本診断ツールと考え初められています。企業展示においても各社のCTがしのぎを削って展示していました。企業展示と言えば、AAPなど海外学会参加の目的の一つに、材料購入があげられますが、今回も多くの日本人が初日から英語で交渉している姿が見受けられました。これも、海外学会参加の醍醐味の一つと言えます。

さて、今回はハワイ大会という事で例年になく午後の終了は3:00!! 皆、暑い中ビーチへ出かけたり、買い物に行ったりとアフター学会を満喫していました。

我々も井汲先生の講演後、ディナークルーズを企画し、AAPに参加しているCISJのメンバー（総勢：15名）でサンセットクルーズを楽しむことができました。



クルーズはヒルトンホテル前で集合。リムジンカーでおおよそ30分ほど行ったハーバーから乗船し、出航後船上でサンセットを満喫、井汲会長の乾杯でディナーをいただき、途中、ポリネシアンダンスで盛り上がりました。下船後、ホノルルの夜景が一望できるアンタリアの丘で一時、ロマンティックな雰囲気を楽しむ、ホテルへ戻りましたが、この夜はハロウィーンでメインストリートのカラカウワ通りは一晩中、仮装した人々で賑わってました。こんな風に行った先のカルチャーを経験できる事も海外学会の楽しみと言えます。

ちなみに来年のAAPはマイアミです！

少し遠いですが、デズニーあり、ユニバーサルスタジオをありと家族で楽しめる場所です。最新のアメリカでの歯周治療と合わせて楽しんで頂けたらと思います。

是非、皆さん参加なさってください。

ALOHA 

